青梨子熊野前遺跡

（あおなしくまのまえいせき）

主要地方道前橋箕郷線地方道路交付金事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2009

群馬県高崎土木事務所
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

▲遺跡遠景（南東から，遠く榛名山を望む）

▲基本土層１（中位の白い部分がHr-FA）

▲基本土層２

重複した竪穴住居（下写真）

群馬県下では、一般的に10世紀初頭において土師器のコの字状口縁甕（コの字甕）から須恵器羽釜へと煮沸具が変化する。この遺跡では、１号住居から土師器のコの字甕が、２号住居から須恵器羽釜がそれぞれ出土した（次頁）。これらの住居は重複して占地するが、それぞれの住居に伴出する土器の型式は、竪穴住居における重複の時間幅と、煮沸具の変遷に良好な資料を提供した（Ⅳ章21頁参照）。

▼１・２号住居遺物出土状況（平安時代，西から，上方が１号住居）

▲1号住居出土遺物(平安時代，6頁参照)

▲2号住居出土遺物(平安時代，9頁参照)

▲3号住居出土遺物(平安時代，13頁参照)

▲**遺跡遠景**（南から，上方左端子持山、中央三国連山、右端赤城山）

▼**遺跡近景**（南から，上方の森が熊野神社その上方の住宅団地の部分が熊野谷遺跡）

▲遺跡上空から（写真上方が北，中央の森が熊野神社）

▼遺跡上空から（写真上方が北）

序

前橋市と旧群馬郡箕郷町（現高崎市）を結ぶ前橋箕郷線は、前橋市街地から放射状に伸びた主要な幹線道路のひとつです。近年の旧群馬郡地域周辺における人口の増加等に伴った交通量の増加は、交通渋滞の発生を招く事態となりました。この交通渋滞を改善し、歩行者、自転車の安全を確保するため、道路の拡幅や歩道の整備が計画されました。

青梨子熊野前遺跡は、この主要地方道前橋箕郷線地方道路交付金事業に伴って、㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成18年度に発掘調査を実施した遺跡です。

調査によって、平安時代～近世の集落の一部を発見することができました。この遺跡が位置する榛名山の南東麓は、特に奈良・平安時代において、上野国府、国分僧寺・尼寺などが立地する、県下の中枢部とも言える主要な地域です。今回の調査では、その縁辺部における集落の一端が明らかになったと言えましょう。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、群馬県中部県民局高崎土木事務所、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、地元関係者の方々から格別のご指導とご高配を賜りました。今回、報告書を上梓するに際し、これら関係者の皆様に衷心より感謝の意を表し、併せて本報告書が群馬県の歴史を解明する上で、広く活用されることを願い序といたします。

平成21年２月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長　高　橋　勇　夫

例　言

1　本書は、主要地方道前橋箕郷線地方道路交付金事業に伴う、青梨子熊野前遺跡の発掘調査報告書である。
2　遺跡名は当初の奈良平安No.32遺跡から、平成20年度における県文化財保護課と前橋市文化財保護課の協議により、青梨子熊野前遺跡に変更した。
3　遺跡所在地　群馬県前橋市青梨子町字熊野前
4　事業主体　群馬県県土整備部(西部県民局　高崎土木事務所)
5　調査主体　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
6　調査期間　平成19年２月１日～平成19年２月28日(平成18年度)
7　整理期間　平成20年12月１日～平成20年12月31日(平成20年度)
8　発掘調査・整理組織
　管理指導　高橋勇夫
　事務担当　木村祐紀　津金澤吉茂　萩原　勉　西田健彦　中束耕志　相京建史　笠原秀樹　石井　清
　　佐嶋芳明　大木紳一郎　斉藤恵利子　国定　均　須田朋子　吉田有光　柳岡良宏　今泉大作
　　栗原幸代　佐藤聖行　矢島一美　齋藤陽子　今井もと子　内山桂子　若田　誠　佐藤美佐子
　　本間久美子　狩野真子　北原かおり　武藤秀典
　調査担当　調査研究部長　西田健彦　主任調査研究員　篠原正洋
　整理担当　主任専門員(総括)　坂口　一
　整理補助　渡部あい子　戸神晴美　高田栄子　大勝桂子
　遺物写真　佐藤元彦　デジタル図版作成　牧野裕美　酒井史恵　安藤美奈子　矢端真親　荒木絵美
　　市田武子　廣津真希子　高梨由美子　横塚由香　下川陽子
　保存処理　関　邦一　小材浩一　津久井桂一　多田ひさ子
　器械実測　田中精子　田所順子　岸　弘子　小池益美　山口洋子
9　本書作成の担当者は次のとおりである。
　執　　筆　主任専門員(総括)　坂口　一
10　出土遺物と記録資料の一切は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
11　本書の作成にあたっては次の方々に有益な指導と助言を賜った。記して感謝の意を表す次第である。
　浅間　陽　小高哲茂　須永光一　田辺芳昭　長井正欣　中村岳彦　南雲芳昭　根岸　仁　土生田純之
　日沖剛史　前田和昭　前原　豊　三浦京子　右島和夫　前橋市教育委員会　(敬称略)

凡　例

1　調査区域には、国家座標の日本平面直角座標第Ⅸ系(世界測地系)に基づいて５ｍ間隔のグリッドを設定し、Ｘ軸、Ｙ軸のそれぞれを下３桁で示した。
2　遺物観察表の記載方法は次のとおりである。
　(1) 胎土中の砂粒の大きさによる分類は、土壌物理研究会による基準に従い、細砂粒(　<0.5mm)、粗砂粒(0.5～2.0mm)、細礫(2.0～5.0mm)、中礫(5.0mm>　)とした。
　(2) 色調は農林省水産技術会議事務局監修、㈱日本色彩研究所色標監修の新版標準土色帖に従った。
　(3) 遺物の出土レベルは、遺構の底面から遺物までの垂直距離を示した。
3　本文中で使用したテフラ記号の名称は以下の通りである。
浅間Ｂ軽石(As-B)……1108(天仁元)年　榛名二ッ岳渋川テフラ(Hr-FA)……６世紀初頭
浅間Ｃ軽石(As-C)……３世紀後半　As-C混土(As-Cを含む土壌)……３世紀後半以降

目　　次

口絵

序

例言

凡例

遺構一覧表

Ⅰ　発掘調査と遺跡の概要……1

1　調査に至る経緯と経過……1

2　調査の方法……1

3　遺跡の位置と地形……2

4　周辺の遺跡……2

5　遺跡の全体図と基本層序……4

Ⅱ　発見された遺構と遺物……5

1　竪穴住居……5

2　土坑……14

Ⅲ　遺物観察表……19

Ⅳ　調査の成果……21

重複住居の時間差と煮沸具変遷の時間幅…21

写真図版

報告書抄録

遺構一覧表

種類	番号	掲載頁			規模（m）				方位	柱穴	竈	貯蔵穴	備考
		本文	写真		短軸	長軸	深さ	面積					
竪穴住居	1	5～7	3・4	13	2.60	－	0.40	不明	N-98°-E	なし	東壁	南東隅	9世紀後半
竪穴住居	2	7～11	5・6	14・15	3.00	－	0.40	不明	N-98°-E	なし	東壁→南西隅	南東隅	10世紀前半 覆土にAs-B
竪穴住居	3	12・13	7	15・16	2.50	－	0.20	不明	N-98°-E	なし	東壁	南東隅	9世紀後半

種類	番号	掲載頁			規模（m）				方位	形状	備考
		本文	写真		短軸	長軸	深さ	面積			
土坑	1	14	8	16	0.65	0.85	0.25	－	N-80°-E	楕円形	9世紀後半？
土坑	2	14	8	16	不明	不明	0.35	－	－	不明	9世紀後半？
土坑	3	14	8	－	不明	不明	0.70	－	－	不明	不明
土坑	4	15	8	16	直径 3.1		2.50	－	－	不明	10世紀前半
土坑	5	16	8	－	0.90	不明	0.45	－	N-9°-E	長方形	不明
土坑	6	16	9	－	直径 0.50		0.30	－	－	円形	不明
土坑	7	16	9	－	直径 0.50		0.25	－	－	円形	不明
土坑	8	17	9	－	0.50	不明	0.70	－	N-67°-E	円形	不明
土坑	9	17	9	－	直径 0.50		0.80	－	－	円形？	近世
土坑	10	17	10	16	0.65	2.50	0.10	－	N-4°-E	長方形	10世紀前半？
土坑	11	18	10	－	(0.90)	(2.20)	0.50	－	N-88°-E	長方形？	不明
土坑	12	18	10	－	直径 0.60		0.25	－	－	円形	不明
土坑	13	18	10	－	1.00	1.35	0.30	－	N-83°-E	楕円形状	不明

Ⅰ　発掘調査と遺跡の概要

1　調査に至る経緯と経過

主要地方道前橋箕郷線は、前橋市と旧群馬郡箕郷町(現高崎市)を結び、前橋市街地から放射状に伸びた幹線道路のひとつである。近年、旧群馬郡地域における人口の増加及び、前橋伊香保バイパスの通過などに伴って交通量が増加し、交通渋滞が発生する事態となってきた。この解消策として道路の拡幅及び歩道の整備が計画された。

事業予定地の周辺には、熊野神社を挟んだ北側で、前橋市埋蔵文化財発掘調査団による住宅団地造成に伴った熊野谷遺跡が存在し、ここでは縄文時代と平安時代の集落が広範囲に確認されていた。このことから、平成18年度における群馬県西部県民局高崎土木事務所と県文化課との協議を経て、平成19年２月１日～平成19年２月28日にかけて、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施するに至った。

2　調査の方法

調査対象地は、その要因の事業が主要地方道前橋箕郷線の拡幅事業であり、現前橋箕郷線に沿った南側の幅約８ｍ、長さ約35ｍ、面積340㎡の範囲である(図１)。調査対象地には世界測地系の国家座標に基づいた５ｍ間隔のグリッドを設定して、座標値の下３桁をその名称に用いた。

調査区域内には、基本土層１(４頁図５)において天仁元年(1108)の浅間Ｂ軽石(As-B)、６世紀初頭の榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)、３世紀後半の浅間Ｃ軽石(As-C)をそれぞれ含む土壌を検出したが、住居の埋没過程に堆積した浅間Ｂ軽石を除いていずれも二次堆積層である。このため、遺構の確認が可能な浅間Ｃ軽石を含む黒色土(基本土層Ⅳ層)の下面を調査面とし、この層より上位は大型掘削機(バックフォー)によって除去した。

図１　発掘調査区域図(Ｓ＝１：2,000)

3　遺跡の位置と地形

青梨子熊野前遺跡は前橋市青梨子町に所在し、前橋市街地の北西約５㎞で、ＪＲ上越線群馬総社駅の南西約1.5㎞に位置する。

この遺跡は、榛名山の南東麓に広がる相馬ケ原扇状地上に立地している。相馬ケ原扇状地は、榛名山麓に形成された裾野扇状地である。この扇状地面の上位には、約1.3～1.4万年前の浅間－板鼻黄色軽石(As-YP)が堆積していることから、As-YPの降下時点では既に離水・段丘化した火山性扇状地で、標高600ｍの扇頂部から110ｍの扇端部にかけて、北西から南東に開けた緩やかな傾斜地形を形成している。

扇状地上には榛名山麓を起源とする午王頭川、八幡川、牛池川、染谷川などが約１㎞の間隔で南東方向に流下して扇状地面を浸食し、この遺跡は八幡川と牛池川に挟まれた台地上に立地する。地形は南東方向の小谷に向けて緩やかに傾斜し、標高は西端部147.0ｍ、東端部146.2ｍで、比高80cmである。

4　周辺の遺跡

この遺跡の周辺では、開発行為が少ないこともあって遺跡の分布は比較的希薄である。旧石器時代では、扇状地の形成過程であったことから現在までのところ遺跡は確認されていない。縄文時代では、熊野神社を挟んだ北側に隣接する熊野谷遺跡で中・後期の住居、土坑、早期の土器が出土している他、南東1.5㎞の国分僧寺・尼寺中間地域遺跡で中期の集落が確認されている。弥生時代は国分僧寺・尼寺中間地域遺跡、北東700ｍの下東西遺跡で後期の住居が確認されているがその規模は小さい。古墳時代は東2㎞の総社古墳群において、特に後期～終末期の王山古墳、二子山古墳、愛宕山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳などの首長墓が相次いで築造され、南東約1.5㎞には山王廃寺が建立される。奈良・平安時代は南東1.5㎞の上野国府、国分僧寺・尼寺など、これらの周辺は上野国の中枢部となり、集落は広範囲に分布して、山麓側への拡大傾向をも示す。

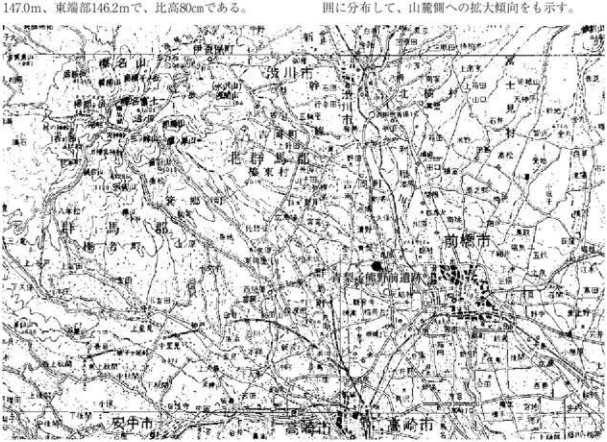


図２　遺跡の地形図(S＝1：20万)

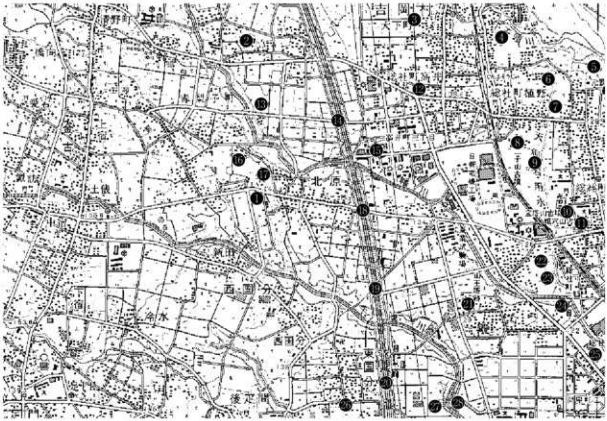


図3　周辺の遺跡位置図（S＝1：25,000）

周辺の遺跡一覧表

No.	遺　跡　名	概　要	文　献
1	**青梨子熊野前遺跡**	平安時代集落、中・近世土坑	本報告書
2	青梨子砦	中世砦	『群馬県の中世城館跡』群馬県教委　1988
3	新田入口遺跡	縄文・弥生時代土坑、古墳・奈良・平安時代・中・近世集落	『長久保大原遺跡・新田入口遺跡』県埋文事業団　2000
4	桜ヶ丘遺跡	縄文・古墳遺物、奈良・平安時代集落、中・近世品	『総社桜ヶ丘遺跡』前橋市埋文調査団　1984
5	勝山城	中世城	『群馬県の中世城館跡』群馬県教委　1988
6	若宮遺跡	奈良・平安時代集落	『若宮遺跡』前橋市埋文調査団　1989
7	稲荷山古墳	古墳時代後期墳墓、近世墓碑・庚申塔	『稲荷山古墳』前橋市埋文調査団　1988
8	総社二子山古墳	古墳時代後期前方後円墳	『群馬県史資料編3』群馬県　1981
9	愛宕山古墳	古墳時代後期円墳	『年報5』日本考古学協会　1957
10	宝塔山古墳	古墳時代終末期方墳	『群馬県史資料編3』群馬県　1981
11	蛇穴山古墳	古墳時代終末期方墳	『群馬県史資料編3』群馬県　1981
12	高井桃ノ木遺跡	縄文包含層、奈良・平安時代集落、中・近世土坑	『高井桃ノ木Ⅱ遺跡』県埋文事業団　2006
13	中島遺跡	奈良・平安時代集落	『中島遺跡発掘調査概報』前橋市教委　1981
14	下東西遺跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代集落	『下東西遺跡』県埋文事業団　1987
15	植田城	中世城	『群馬県古城郡址の研究』山崎一　1971
16	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	平安時代集落	『熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡』前橋市埋文調査団　1991
17	熊野谷遺跡	縄文・平安時代集落	『熊野谷遺跡』前橋市埋文調査団　1989
18	北原遺跡	古墳時代水田、奈良・平安時代集落、中世溝	『北原遺跡』群馬町教委　1986
19	国分境遺跡	古墳・平安時代集落	『国分境遺跡』県埋文事業団　1990
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域	縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代集落・中世寺院	『上野国分僧寺・尼寺中間地域(1)～(7)』県埋文事業団　1986～1992
21	山王廃寺跡	白鳳～飛鳥時代寺院・集落	『山王廃寺跡発掘調査概報』前橋市教委　1976
22	村東遺跡	平安時代集落	『村東遺跡』前橋市教委　1988
23	大屋敷遺跡	縄文・古墳・奈良・平安時代集落	『大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ』前橋市埋文調査団　1993～2000
24	昌楽寺廻向遺跡	縄文包含層、平安時代集落	『昌楽寺廻向Ⅱ遺跡』前橋市埋文調査団　1988
25	稲荷塚道東遺跡	縄文・弥生遺物、古墳～平安時代集落、中・近世溝	『稲荷塚道東遺跡』県埋文事業団　2003
26	上野国分寺跡	奈良・平安時代寺院	『史跡上野国分寺跡』群馬県教委　1988
27	上野国分尼寺跡	奈良・平安時代寺院	『上野国分尼寺跡発掘調査報告書』群馬県教委　1970・1971
28	元総社北川遺跡	古墳～平安時代低地・田品・灌漑施設・集落	『元総社北川遺跡他』県埋文事業団　2007

5　遺跡の全体図と基本層序

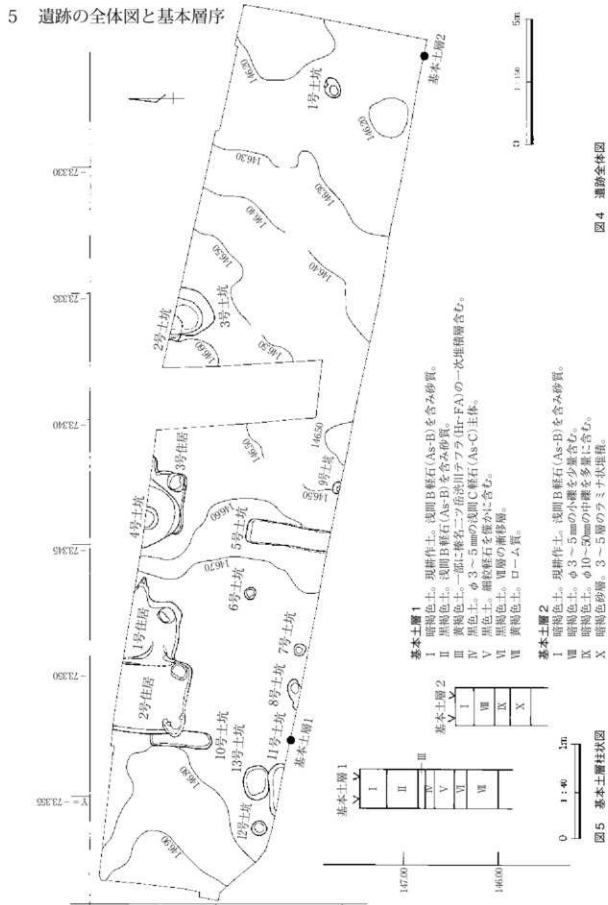


図4　遺跡全体図

図5　基本土層柱状図

Ⅱ　発見された遺構と遺物

1　竪穴住居

1号住居（写真PL.3・4・13、遺物観察19頁）

規模・形状　住居の北半部が調査区域外で全形は不明だが、南北に長軸をもつ長方形と推定。確認した東西軸長は2.6m。**床面**　基盤層を40cm掘り込んで構築面とする。構築面は平坦で、住居の西側に東西軸1.2m、深さ20cmの床下土坑を設置。この床下土坑を埋め戻し、さらに構築面の全体に厚さ5cmの貼床を施して平坦な生活面とする。**柱穴**　壁内に主柱穴はない。**竈**　東壁に設置するが、北部が調査区域外で燃焼部の全形は確認できない。燃焼部は幅70cm（推定）、奥行き60cmで、燃焼部を壁外に造り出す壁外型。煙道は奥壁の底面から、幅25cmで緩やかに立ち上がる。燃焼部の壁面は強く焼け、覆土内からは天井部を構成していた粘土の焼土ブロックが多量に出土。**壁溝**　無し。**貯蔵穴**　住居の南東隅に直径60cm、深さ20cmの円形で設置。**遺物**　住居南壁際の床面直上から土師器甕・小形台付甕、須恵器坏・椀、灰釉陶器皿・椀が出土。**重複**　住居の西側で2号住居と重複。1住→2住の順で新しい、平面精査及び土層断面の所見を得た。**方位**　N-98°-E。**面積**　計測不可。**年代**　出土遺物から9世紀後半と推定。**所見**　2号住居との新旧関係が、土師器甕から須恵器羽釜への移行過程を証明する良好な資料。

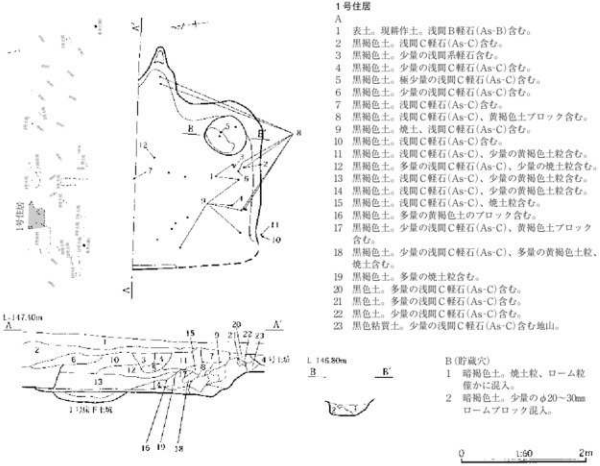
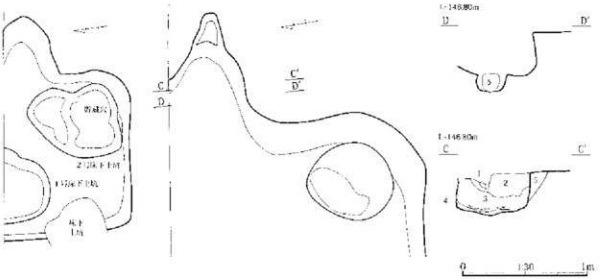


図6　1号住居



C（竈）
1　褐色土。暗褐色土と竈構築材のローム質土との混土。
2　暗褐色土。少量のφ5～10mmローム粒、焼土粒混入。
3　暗褐色土。多量の赤褐色土の焼土ブロック混入。
4　黒褐色土。砂質の灰層。
5　暗褐色土。少量のローム質土ブロック混入。

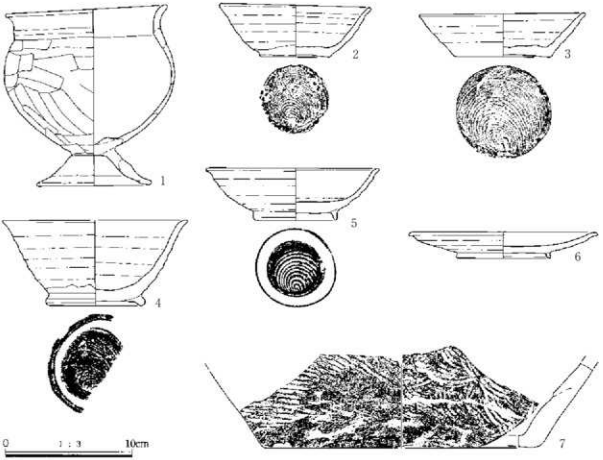


図7　1号住居・出土遺物1

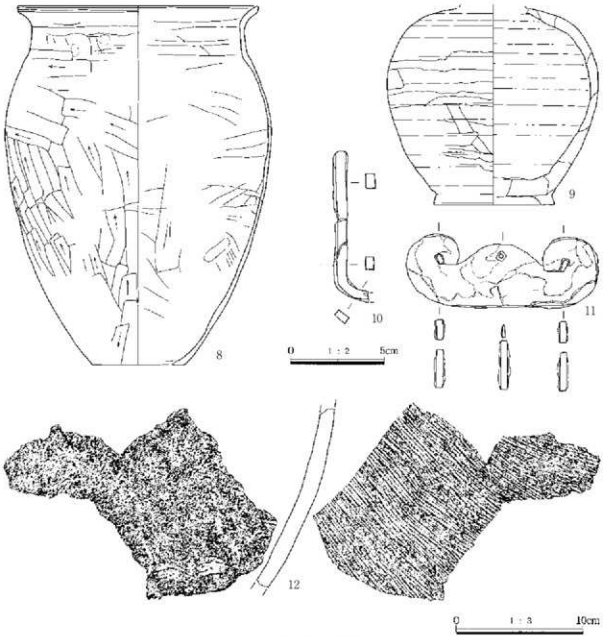


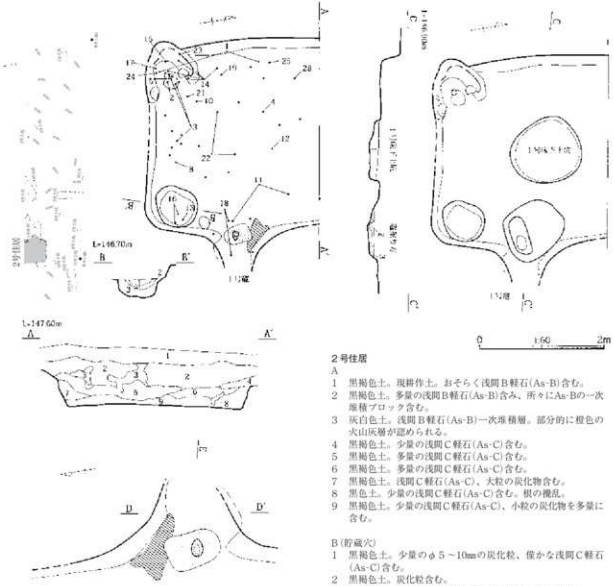
図8　1号住居出土遺物2

2号住居(写真PL.5・6・14・15、遺物観察19・20頁)

規模・形状　住居の北半部が調査区域外で全形は不明だが、南北に長軸をもつ長方形と推定。確認した東西軸長は3.0m。**床面**　基盤層を40cm掘り込んで平担な生活面とする。住居の中央部に直径1.1m、深さ20cmの床下土坑を設置。**覆土**　床面上30cmの位置に、浅間B軽石(As-B)の一次堆積層をブロック状に確認(No.3層)。下層は層厚約1cmの灰色細粒火山灰、上層は層厚約20cmの灰白色粗粒軽石。住居の埋没過程における、最終段階の僅かな窪みに堆積。**柱穴**　壁内に主柱穴はない。**竈**　東壁から、住居南西隅への造り替え。東壁竈は1号住居との重複部に位置して形状は確認できないが、強く焼けた火床を検出。火床の位置から、燃焼部を壁外に造り出す壁外型で、おそらく南西隅への造り替えの際に破壊したものと推定。南西隅竈は燃焼部の幅50cm、奥行き50cmで、左側の袖端部を住居の南壁に付け、右側は長

さ50cmの袖部を壁内に造り付ける変則型。両側の袖端部を角礫で補強し、火床の中央に角礫を埋め込んで支脚とする。火床は強く焼けた痕跡を示す。煙道は不明。**壁溝**　無し。**貯蔵穴**　住居の南東隅に短軸60cm、長軸70cm、深さ30cmの不整方形で設置。**遺物**

竈内及び周辺の床面上から土師器椀、須恵器椀・羽釜、灰釉陶器椀、鉄鎌、覆土内から鉄滓が出土。**重複**　住居の東側で１号住居と重複。１住→２住の順で新しい、平面精査及び土層断面の所見を得た。**方位**　N-98°-E。**面積**　計測不可。**年代**　出土遺物から10世紀前半と推定。**所見**　１号住居との新旧関係が、土師器甕から須恵器羽釜への移行過程を証明する良好な資料。住居埋没過程における最終段階の僅かな窪みに、天仁元年(1108)に降下した浅間Ｂ軽石(As-B)が一次堆積することから、この住居の凹みが消滅するまでには約２世紀を要したことになる。



２号住居

A

1　黒褐色土。現耕作土。おそらく浅間Ｂ軽石(As-B)含む。
2　黒褐色土。多量の浅間Ｂ軽石(As-B)含み、所々にAs-Bの一次堆積ブロック含む。
3　灰白色土。浅間Ｂ軽石(As-B)一次堆積層。部分的に橙色の火山灰層が認められる。
4　黒褐色土。少量の浅間Ｃ軽石(As-C)含む。
5　黒褐色土。多量の浅間Ｃ軽石(As-C)含む。
6　黒褐色土。多量の浅間Ｃ軽石(As-C)含む。
7　黒褐色土。浅間Ｃ軽石(As-C)、大粒の炭化物含む。
8　黒色土。少量の浅間Ｃ軽石(As-C)含む。根の攪乱。
9　黒褐色土。少量の浅間Ｃ軽石(As-C)、小粒の炭化物を多量に含む。

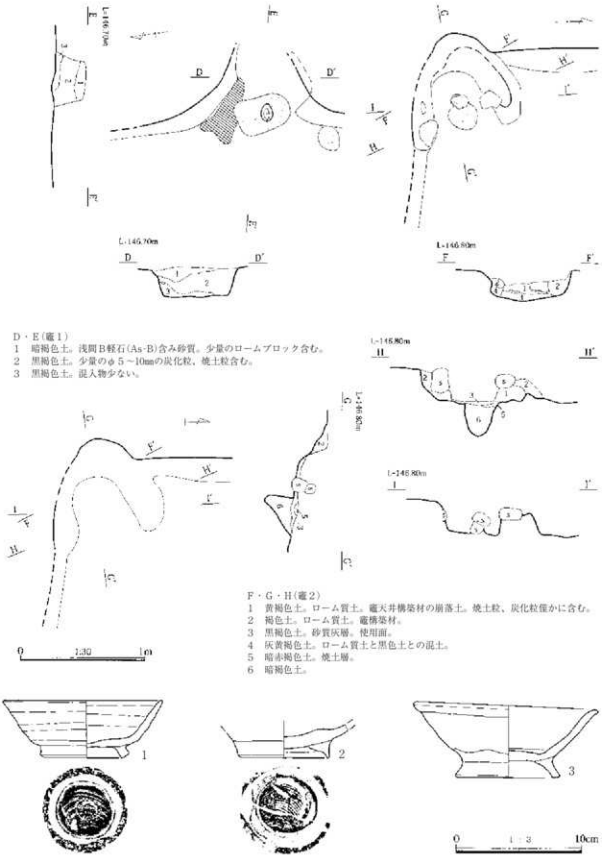
B(貯蔵穴)

1　黒褐色土。少量のφ５～10mmの炭化粒、僅かな浅間Ｃ軽石(As-C)含む。
2　黒褐色土。炭化粒含む。
3　黒褐色土。少量の炭化物含むが、全体に混入物少ない。

C(床下土坑)

1　黒褐色土。多量の浅間Ｃ軽石(As-C)、焼土粒、炭化物粒、少量の褐色土ブロック含む。
2　褐灰色土。少量の浅間Ｃ軽石(As-C)含む。
3　褐灰色土。地山の明褐色粘質土ブロックの混土。

図９　２号住居



D・E（竈1）
1　暗褐色土。浅間B軽石(As-B)含み砂質。少量のロームブロック含む。
2　黒褐色土。少量の φ 5～10mmの炭化粒，焼土粒含む。
3　黒褐色土。混入物少ない。

F・G・H（竈2）
1　黄褐色土。ローム質土。竈天井構築材の崩落土。焼土粒、炭化粒僅かに含む。
2　褐色土。ローム質土。竈構築材。
3　黒褐色土。砂質灰層。使用面。
4　灰黄褐色土。ローム質土と黒色土との混土。
5　暗赤褐色土。焼土層。
6　暗褐色土。

図10　2号住居・出土遺物1

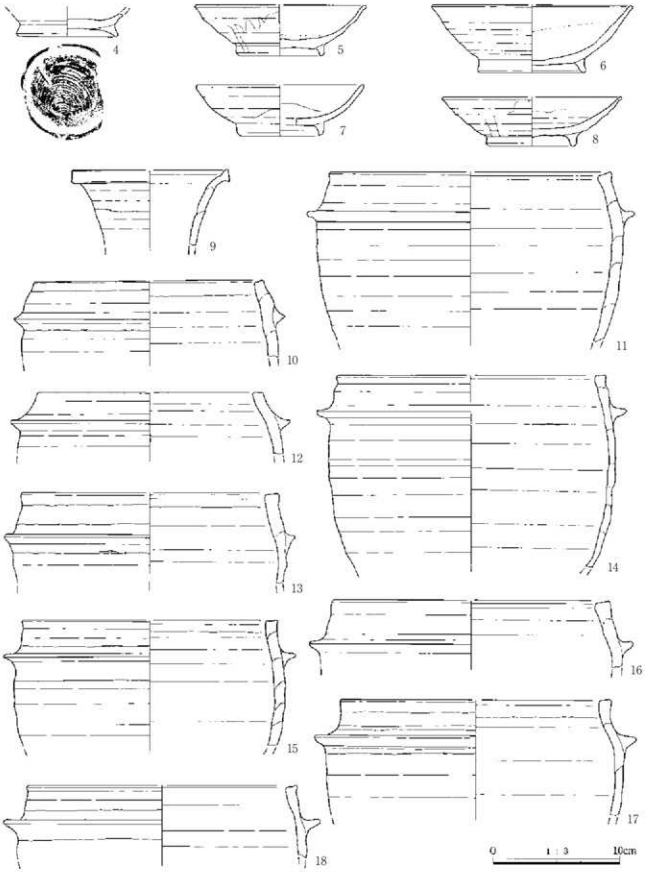


図11　２号住居出土遺物２

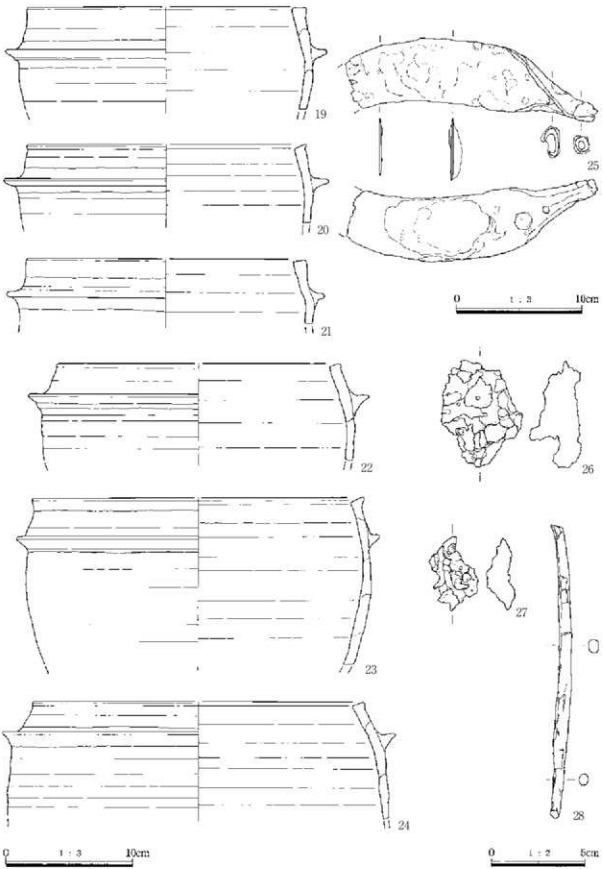
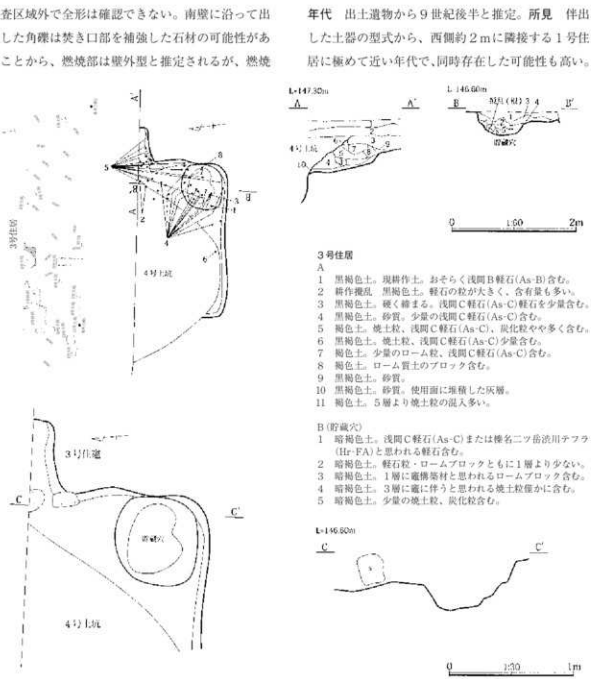


図12　２号住居出土遺物３

３号住居（写真PL.７・15・16、遺物観察20頁）

規模・形状　住居の北半部が調査区域外で、調査区域内の大半を後世の土坑が重複するために、住居南東隅の一部を確認したのみで全形は不明だが、南北に長軸をもつ長方形と推定。確認した東西軸長は2.5ｍ。**床面**　基盤層を20㎝掘り込んで生活面とする。確認した範囲の生活面は、平坦で整う。**柱穴**　壁内に主柱穴はない。**竈**　東壁に設置するが、北半部が調査区域外で全形は確認できない。南壁に沿って出土した角礫は焚き口部を補強した石材の可能性があることから、燃焼部は壁外型と推定されるが、燃焼部、煙道部ともにその詳細な状況は不明。**壁溝**　無し。**貯蔵穴**　住居の南東隅に一辺70㎝、深さ20㎝の正方形で設置。**遺物**　貯蔵穴内及び周辺の床面直上から土師器坏・甕、須恵器椀、瓦片、覆土内から刀子、鉄滓が出土。**重複**　住居の大半を４号土坑と重複。３住→４土坑の順で新しい平面精査・土層断面の所見を得た。**方位**　N-98°-E。**面積**　計測不可。**年代**　出土遺物から９世紀後半と推定。**所見**　伴出した土器の型式から、西側約２ｍに隣接する１号住居に極めて近い年代で、同時存在した可能性も高い。



３号住居

A

1　黒褐色土。現耕作土。おそらく浅間Ｂ軽石(As-B)含む。
2　耕作攪乱。黒褐色土。軽石の粒が大きく、含有量も多い。
3　黒褐色土。硬く締まる。浅間Ｃ軽石(As-C)軽石を少量含む。
4　黒褐色土。砂質。少量の浅間Ｃ軽石(As-C)含む。
5　褐色土。焼土粒、浅間Ｃ軽石(As-C)、炭化粒やや多く含む。
6　黒褐色土。焼土粒、浅間Ｃ軽石(As-C)少量含む。
7　褐色土。少量のローム粒、浅間Ｃ軽石(As-C)含む。
8　褐色土。ローム質土のブロック含む。
9　黒褐色土。砂質。
10　黒褐色土。砂質。使用面に堆積した灰層。
11　褐色土。５層より焼土粒の混入多い。

B（貯蔵穴）

1　暗褐色土。浅間Ｃ軽石(As-C)または榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)と思われる軽石含む。
2　暗褐色土。軽石粒・ロームブロックともに１層より少ない。
3　暗褐色土。１層に竈構築材と思われるロームブロック含む。
4　暗褐色土。３層に竈に伴うと思われる焼土粒僅かに含む。
5　暗褐色土。少量の焼土粒、炭化粒含む。

図13　３号住居

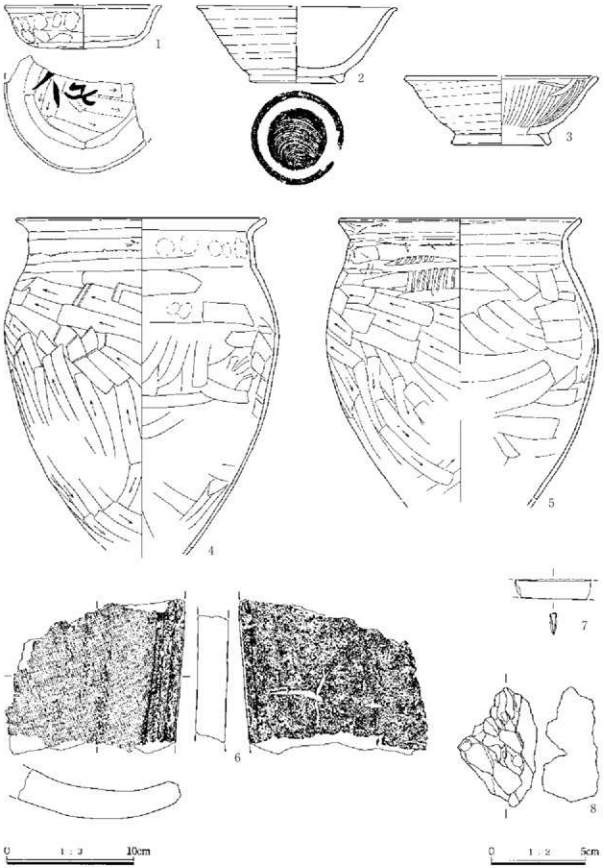
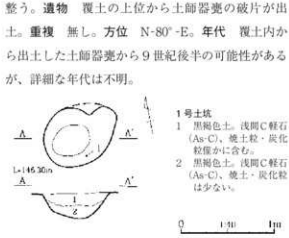


図14　3号住居出土遺物

2　土　坑

1号土坑(写真PL.8・16、遺物観察20頁)

規模・形状　短軸65cm、長軸85cm、深さ25cmで、東西に長軸をもつ楕円形状。**底面**　全体にほぼ平坦で整う。**遺物**　覆土の上位から土師器甕の破片が出土。**重複**　無し。**方位**　N-80°-E。**年代**　覆土内から出土した土師器甕から9世紀後半の可能性があるが、詳細な年代は不明。



1号土坑
1　黒褐色土。浅間C軽石(As-C)、焼土粒・炭化粒僅かに含む。
2　黒褐色土。浅間C軽石(As-C)、焼土・炭化粒は少ない。

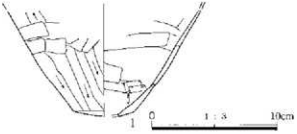


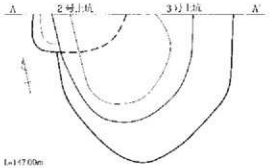
図15　1号土坑・出土遺物

2号土坑(写真PL.8・16、遺物観察20頁)

規模・形状　北半部が調査区域外で全形は不明。確認した東西軸は1.0m、深さ35cm。**底面**　土層断面から推定した底面は、平坦で整う。**遺物**　覆土内から土師器小形台付甕、灰釉陶器椀が出土。**重複**　3号土坑と重複。3土坑→2土坑の順で新しい土層断面の所見を得た。**方位**　計測不可。**年代**　覆土内から出土した土器から9世紀後半の可能性があるが、詳細な年代は不明。

3号土坑(写真PL.8)

規模・形状　北半部が調査区域外で全形は不明。確認した東西軸1.9m、深さ70cm。**底面**　西側に偏って緩やかに凹み、全体に平坦な面はない。**遺物**　無し。**重複**　2号土坑と重複。3土坑→2土坑の順で新しい土層断面の所見を得た。**方位**　計測不可。**年代**　2号土坑が平安時代であるとすれば、重複関係からそれ以前と考えられるが、詳細な年代は不明。



2・3号土坑
1　明褐色土。現耕作土。小礫及び攪拌により混入した浅間・二ッ岳軽石含む。
2　黒褐色土。多量の浅間・二ッ岳軽石、炭化物・焼土の小粒含む。
3　黒褐色土。少量の浅間・二ッ岳軽石、炭化物・焼土の小粒含む。

2号土坑
4　暗褐色土。少量の焼土粒、浅間軽石、地山の茶褐色土ブロック含む。

3号土坑
5　暗褐色土。多量の焼土粒・炭化物、少量の軽石含む。
6　暗褐色土。焼土粒・炭化物を4、5層よりも多く含む。地山の茶褐色土との混土。
7　暗褐色土。多量の焼土粒・炭化物、浅間軽石含む。
8　明褐色土。地山の茶褐色土との混土。壁面の崩落土。
9　褐色土。礫含む。軽石は含まない。

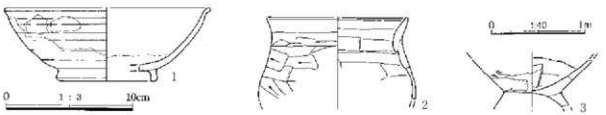
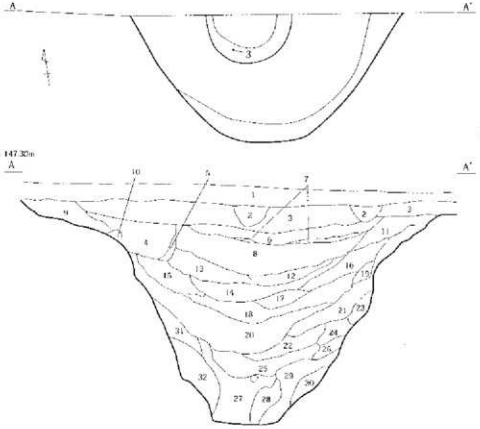


図16　2・3号土坑・2号土坑出土遺物

4号土坑（写真PL.8・16、遺物観察20頁）

規模・形状　遺構の北半部が調査区域外で全形は不明だが、上端の直径3.1m、下端の直径73cm、深さ25mの円形と推定。断面形は底面が小さい擂鉢状を呈し、壁面は約60°の一様な急勾配で掘り込む。**底面**　確認した範囲の底面は平坦。**遺物**　覆土内から須恵器坏2点、瓦片が出土。**重複**　3号住居と重複。3住→4土坑の順で新しい、平面精査及び土層断面の所見を得た。**方位**　計測不可。**年代**　覆土内から出土した須恵器から、10世紀前半の可能性が高いものと推定。これは伴出する瓦が9世紀代であることと、9世紀後半と推定できる3号住居との重複の新旧関係に矛盾がない。



4号土坑

1　黒褐色土。現耕作土。おそらく浅間B軽石(As-B)含む。
2　耕作攪乱。黒褐色土。硬く締まる浅間C軽石(As-C)を多量に含む。
3　耕作攪乱。黒褐色土。2層より6軽石の粒が大きく、含有量多い。
4　黒褐色土。浅間C軽石(As-C)・焼土粒・小礫含む。
5　黒褐色土。少量の浅間C軽石(As-C)含む。
6　黒褐色土。少量の浅間C軽石(As-C)・炭化物含む。
7　黒褐色土。少量の浅間C軽石(As-C)含み、粘質。
8　黒色土。少量の浅間C軽石(As-C)・炭化物・小礫含む。
9　黒褐色土。多量の浅間C軽石(As-C)多量含み、粘質。
10　黒色土。少量の浅間C軽石(As-C)含む。地山のブロック。
11　黒褐色土。少量の浅間C軽石(As-C)、炭化物含む。
12　黒色土。浅間C軽石(As-C)・焼土粒含む。
13　黒色土。浅間C軽石(As-C)含む。
14　黒色土。浅間C軽石(As-C)、少量の炭化物含む。
15　黒色土。浅間C軽石(As-C)、少量の炭化物含む。
16　黒色土。多量の浅間C軽石(As-C)、少量の炭化物・焼土粒含む。
17　黒色土。多量の浅間C軽石(As-C)、少量の炭化物含む。
18　黒色土。多量の浅間C軽石(As-C)、少量の焼土粒・炭化物、部分的砂質土含む。
19　黒褐色土。多量の浅間C軽石(As-C)、少量の焼土粒含む。
20　黒色土。少量の浅間C軽石(As-C)、地山の明褐色土粒子ブロック状に含む。
21　黒色土。少量の浅間C軽石(As-C)・炭化物、地山の明褐色砂質土をブロック状に含む。
22　黒色土。砂質土。
23　黄褐色土。砂質土。地山の崩落土。
24　黒色土。黄褐色土との混土。
25　黒色土。黒色砂質土。
26　灰色。崩落した砂質土。
27　黒色土。粘質土。多量の明褐色土含む。
28　褐灰色土。粘性土。φ3cmの礫含む。
29　褐灰色土。26層との混土。φ1cmの礫含む。
30　灰白色土。地山の砂質土の崩落土。
31　明褐色土と褐灰色土の粘質土との混土。
32　地山の明褐色土と灰白色土との混土。崩落土。

図17　4号土坑

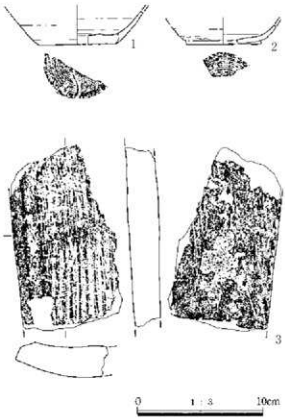


図18　4号土坑出土遺物

6号土坑(写真PL.9)

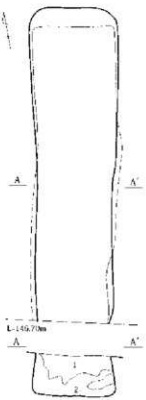
規模・形状　直径50cm、深さ30cmのほぼ整った円形。**底面**　全体にほぼ平坦で整う。**遺物**　無し。**重複**　無し。**年代**　年代を推定し得る伴出遺物がなく、詳細な年代は不明。覆土に浅間C軽石(As-C)を含むことから、3世紀後半以降の所産。

6号土坑
1　黒褐色土。砂質。極少量の浅間C軽石(As-C)含む。
2　黒褐色土。1層より少し締まりあり。

図20　6号土坑

5号土坑(写真PL.8)

規模・形状　南側が調査区域外で全形は不明。短軸90cm、長軸3.3m以上、深さ45cmで、南北に長軸をもつ長方形。**底面**　全体にほぼ平坦で整う。**遺物**　無し。**重複**　無し。**方位**　N-9°-E。**年代**　伴出遺物がなく、詳細な年代は不明。

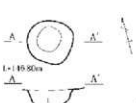


5号土坑
1　黒褐色土。やや砂質。地山の黒色土と褐色土を含む。
2　黒褐色土。黒色土・褐色土ブロックの混入少なく、極少量の炭化粒含む。

図19　5号土坑

7号土坑(写真PL.9)

規模・形状　直径50cm、深さ25cmのほぼ整った円形。**底面**　全体にほぼ平坦で整う。**遺物**　無し。**重複**　無し。**年代**　年代を推定し得る伴出遺物がなく、詳細な年代は不明。覆土に浅間C軽石(As-C)を含むことから、3世紀後半以降の所産。

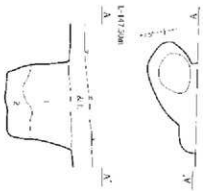


7号土坑
1　黒褐色土。砂質。極少量の浅間C軽石(As-C)含む。

図21　7号土坑

8号土坑（写真PL.9）

規模・形状　南側が調査区域外で全形は不明。短軸50cm、深さ70cmで、東西に長軸をもつ不整楕円形状。**底面**　東側が直径35cm、深さ10cmの円形に掘り込まれる。**遺物**　無し。**重複**　無し。**方位**　N-67°-E。**年代**　年代を推定し得る伴出遺物がなく、詳細な年代は不明。

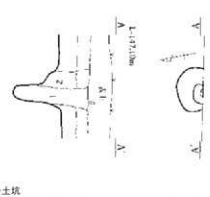


8号土坑
1　黒褐色土。砂質。極少量の浅間C軽石（As-C）含む。
2　黒褐色土。砂質。僅かに浅間C軽石（As-C）含む。

図22　8号土坑

9号土坑（写真PL.9）

規模・形状　南側が調査区域外で全形は不明だが、直径50cmの掘方内に、直径20cm、深さ80cmの柱痕を確認したことから柱穴あるいは杭と推定。**遺物**　無し。**重複**　無し。**年代**　年代を推定し得る伴出遺物はないが、表土の直下から掘り込んでいることから、おそらく近世以降と推定。

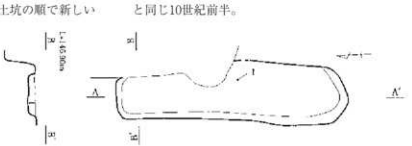


9号土坑
1　黒褐色土。砂質。僅かに浅間C軽石（As-C）含む。
2　黒褐色土。砂質。少量の浅間C軽石（As-C）、地山の黒色土含む。

図23　9号土坑

10号土坑（写真PL.10・16、遺物観察20頁）

規模・形状　短軸65cm、長軸2.5m、深さ10cmで、南北に長軸をもつ長方形。**底面**　全体にほぼ平坦で整う。**遺物**　底面直上から須恵器羽釜破片が出土。**重複**　2号住居と重複。2住→10土坑の順で新しい平面精査の所見を得た。**方位**　N-4°-E。**年代**　2号住居より新しいことから平安時代以降の所産で、伴出する須恵器羽釜が年代を示すとすれば、2号住居と同じ10世紀前半。



10号土坑
1　黒褐色土。浅間C軽石（As-C）含む。
2　黒褐色土。浅間C軽石（As-C）含む。
　1層より締まりがある。

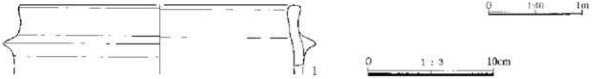


図24　10号土坑・出土遺物

11号土坑(写真PL.10)

規模・形状　南側が調査区域外で全形は不明だが、短軸90cm(推)、長軸2.2m(推)、深さ50cmで、東西に長軸をもつ不整楕円形状と推定。**底面**　確認した範囲は平坦で整う。**遺物**　無し。**重複**　無し。**方位**　N-88°-E。**年代**　年代を推定し得る伴出遺物がなく、詳細な年代は不明。

13号土坑(写真PL.10)

規模・形状　短軸1.0m、長軸1.35m、深さ30cmで、東西に長軸をもつ不整楕円形状。**底面**　全体にほぼ平坦で整う。**遺物**　無し。**重複**　無し。**方位**　N-83°-E。**年代**　年代を推定し得る伴出遺物がなく、詳細な年代は不明。

12号土坑(写真PL.10)

規模・形状　直径60cm、深さ25cmの整った円形。**底面**　全体にほぼ平坦で整う。**遺物**　無し。**重複**　無し。**年代**　年代を推定し得る伴出遺物がなく、詳細な年代は不明。

図25　12号土坑

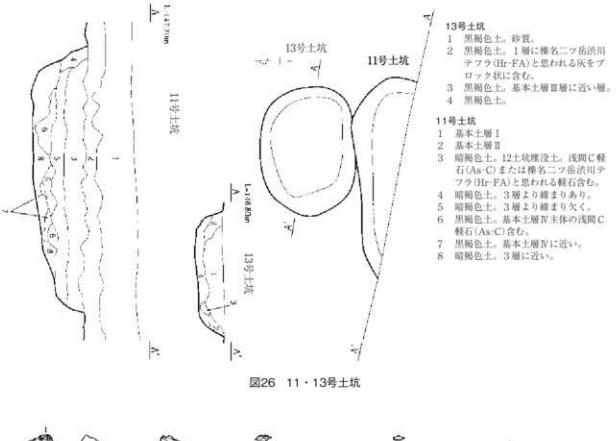


図26　11・13号土坑

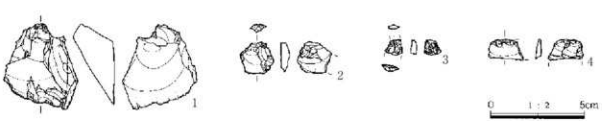


図27　遺構外出土遺物

Ⅲ　遺物観察表

竪穴住居

1号住居

番号	種類 器種	出土 レベル	法量 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)		残存状態 備考
1	土師器 小形台付甕	-3.+3	口12.7 底9.0 高14.0	①普通　②橙色　③白・褐色細砂粒・角閃石	外面 内面	口縁部横撫で、胴部上半横位篦削り、下半斜縦位篦削り、台部撫で。内面　口縁部横撫で。胴部・台部撫で、胴部横撫で。	1/2
2	須恵器 坏	+3	口12.0 底5.6 高4.2	①還元　②灰色　③白色細砂粒・角閃石	外面 内面	体部轆轤整形、底部右回転糸切り。 体部轆轤整形。	ほぼ完形
3	須恵器 坏	-3	口13.0 底7.6 高3.5	①還元　②灰色　③白色軽石・黒色細砂粒	外面 内面	体部轆轤整形、底部右回転糸切り。 体部轆轤整形。	完形
4	須恵器 椀	+3	口14.6 底7.9 高6.7	①還元　②灰黄色　③白・黒色細砂粒	外面 内面	体部轆轤整形、底部右回転糸切り。 体部轆轤整形。	1/5
5	灰釉陶器 椀	+20	口13.6 底6.6 高4.1	①還元　②灰白色　③白色細砂粒	外面 内面	体部轆轤整形、底部右回転糸切り。 体部轆轤整形。内面刷毛塗り施釉。	ほぼ完形
6	灰釉陶器 皿	-3	口14.8 底7.5 高2.1	①還元　②灰白色　③白色細砂粒	外面 内面	体部轆轤整形、底部回転篦撫で。 体部轆轤整形。内面全面施釉。	2/3
7	須恵器 甕	+10	口一　底21.6 高一	①還元　②灰色　③白色軽石・黒色細砂粒	外面 内面	胴部平行叩き。 胴部青海波文。	胴部下位破片
8	土師器 甕	-3.+3. ±0.+5. +4	口19.1 底(7.3) 高28.1	①普通　②橙色　③白・褐色細砂粒・角閃石	外面 内面	口縁部横撫で、胴部上位横位篦削り、中・下位斜縦位篦削り。 口縁部横撫で、胴部篦撫で後撫で。	1/3
9	須恵器 長頸壺	+3.-4. ±0	口一　底(9.6) 高一	①還元　②灰色　③礫・細砂粒	外面 内面	体部轆轤整形後、横位篦撫で。 体部轆轤整形。	体部1/3
10	鉄釘	+30	長≒8.0　幅0.5　厚≒0.7　重≒12.6g				完形
11	火打鉄	+3	長≒3.8　幅10.0　厚≒0.4　重≒46.8g				完形
12	須恵器 甕	+1	口一　底一 高一	①還元　②褐灰色　③白色細砂粒・角閃石	外面 内面	胴部胴毛目。 胴部撫で。	胴部破片

2号住居

1	須恵器 椀	+9.+15	口12.6 底7.0 高4.5	①還元　②灰白色　③白・黒色細砂粒	外面 内面	体部轆轤整形、底部右回転糸切り。 体部轆轤整形。	完形
2	須恵器 椀	+11	口一　底7.3 高一	①酸化　②純い橙色　③白色軽石・黒色細砂粒	外面 内面	体部轆轤整形、底部右回転糸切り。 体部轆轤整形。	底部
3	土師器 椀	+20.+7. ±0	口14.5 底8.2 高5.6	①普通　②灰黄色　③白色細砂粒	外面 内面	体部～底部撫で。 体部～底部撫で。内外面煤付着。	口縁一部欠損
4	須恵器 椀	+15	口一　底8.1 高一	①還元　②黄灰色　③白色軽石・褐色細砂粒	外面 内面	体部轆轤整形、底部右回転糸切り。 体部轆轤整形。	底部
5	灰釉陶器 椀	覆土	口(13.5) 底7.0 高4.0	①還元　②灰白色　③白色細砂粒	外面 内面	体部轆轤整形、底部回転篦撫で。 体部轆轤整形。内面刷毛塗り施釉。	1/4
6	灰釉陶器 椀	覆土	口(15.9) 底(8.5) 高5.3	①還元　②灰白色　③白色細砂粒	外面 内面	体部轆轤整形、底部回転篦撫で。 体部轆轤整形。内外面浸掛け施釉。	口縁～底部破片
7	灰釉陶器 椀	覆土	口(13.2) 底(6.8) 高4.0	①還元　②灰白色　③白色細砂粒	外面 内面	体部轆轤整形、底部不明。 体部轆轤整形。内外面浸掛け施釉。	口縁～底部破片
8	灰釉陶器 椀	+19	口(14.1) 底7.2 高3.9	①還元　②灰白色　③白色細砂粒	外面 内面	体部轆轤整形、底部回転篦撫で。 体部轆轤整形。内外面浸掛け施釉。	1/3
9	須恵器 短頸壺	覆土	口(12.4) 底～ 高～	①還元　③褐灰色　③白色軽石・褐色細砂粒	外面 内面	頸部轆轤整形。 頸部轆轤整形。	口縁～頸部1/4
10	須恵器 羽釜	+18	口(18.0) 底～ 高～	①還元　②灰黄色　③白色細砂粒	外面 内面	鍔轆轤整形。 鍔轆轤整形。	口縁部破片
11	須恵器 羽釜	+14.+2	口(22.2) 底～ 高～	①酸化　②橙色　③白・黒色細砂粒	外面 内面	鍔轆轤整形。 鍔轆轤整形。	口縁～胴部中位部破片
12	須恵器 羽釜	+17	口(17.8) 底～ 高～	①酸化　②純い橙色　③白色細砂粒	外面 内面	鍔轆轤整形。 鍔轆轤整形。	口縁部1/4
13	須恵器 羽釜	+5	口(20.3) 底～ 高～	①酸化　②純い黄橙色③白色細砂粒	外面 内面	鍔轆轤整形。 鍔轆轤整形。	口縁部破片
14	須恵器 羽釜	±0.+6. +11.+16	口(21.2) 底～ 高～	①酸化　②純い黄橙色③白・黒色細砂粒・角閃石	外面 内面	鍔轆轤整形。 鍔轆轤整形。	口縁部～胴部下位1/3
15	須恵器 羽釜	+10	口(20.0) 底～ 高～	①還元　②純い黄橙色③白色細砂粒	外面 内面	鍔轆轤整形。 鍔轆轤整形。	口縁部破片
16	須恵器 羽釜	+2.+11	口(21.9) 底～ 高～	①酸化　②橙色　③白色軽石・褐色細砂粒・角閃石	外面 内面	鍔轆轤整形。 鍔轆轤整形。	口縁部破片
17	須恵器 羽釜	+8	口(21.2) 底～ 高～	①酸化　②橙色　③白色細砂粒・角閃石	外面 内面	鍔轆轤整形。 鍔轆轤整形。	口縁部破片
18	須恵器 羽釜	+20.+28	口(21.3) 底～ 高～	①酸化　②橙色　③白色軽石・褐色細砂粒	外面 内面	鍔轆轤整形。 鍔轆轤整形。	口縁部破片

Ⅲ　遺物観察表

2号住居

番号	種類 器種	出土 レベル	法量 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)		残存状態 備考
19	須恵器 羽釜	+4	口(22.0) 底－ 高－	①酸化　②純い橙色　③白色軽石・白色細砂粒	外面 内面	轆轤整形。 轆轤整形。	口縁部破片
20	須恵器 羽釜	覆土	口(22.0) 底－ 高－	①酸化　②純い黄橙色 ③白・黒色細砂粒	外面 内面	轆轤整形。 轆轤整形。	口縁部破片
21	須恵器 羽釜	+4	口(22.0) 底－ 高－	①酸化　②橙色　③白色 細砂粒	外面 内面	轆轤整形。 轆轤整形。	口縁部破片
22	須恵器 羽釜	+10.+5	口(22.4) 底－ 高－	①酸化　②純い黄橙色 ③白色細砂粒	外面 内面	轆轤整形。 轆轤整形。	口縁部破片
23	須恵器 羽釜	+10	口(26.1) 底－ 高－	①還元　②灰黄色　③白 色軽石・白色細砂粒	外面 内面	轆轤整形。 轆轤整形。	口縁部～胴部 中位破片
24	須恵器 羽釜	+5	口(26.1) 底－ 高－	①酸化　②純い黄橙色 ③白・褐色細砂粒	外面 内面	轆轤整形。 轆轤整形。	口縁部破片
25	鉄鏃	+1	長さ<17.7>幅4.5　厚さ0.2　重さ54.4g				先端部欠損
26	鉄滓	覆土	長さ5.5　幅4.2　厚さ2.0　重さ42.4g				
27	鉄滓	覆土	長さ3.9　幅2.2　厚さ1.2　重さ12.5g				
28	鉄紡錘車軸	+12	長さ15.5　幅0.7　厚さ0.5　重さ14.0g				

3号住居

1	土師器 坏	−3	口(12.4) 底(7.5) 高3.5	①普通　②橙色　③白色 軽石・褐色細砂粒・角閃石	外面 内面	口縁部横撫で、体部指頭痕、底部篦削り。 口縁部横撫で、体部～底部撫で。	1/2、底部外 面に墨書
2	須恵器 椀	±0.+2	口15.7 底7.4 高6.1	①還元　②灰白色　③白 色細砂粒・礫	外面 内面	体部轆轤整形、底部右回転糸切り。 体部轆轤整形。	1/2
3	黒色土器 椀	+13	口(15.2) 底(8.0) 高5.5	①酸化　②浅黄橙色　③ 白・褐色細砂粒・角閃石	外面 内面	体部轆轤整形、底部回転糸切り。 体部轆轤整形後縦位篦研磨。黒色処理。	1/3
4	土師器 甕	±0～ +23	口19.8 底－ 高－	①普通　②純い橙色　③ 白色細砂粒・角閃石	外面 内面	口縁部横撫で、胴部上位斜横位篦削り、中 ・下位斜縦位篦削り。 口縁部横撫で、胴部篦撫で後撫で。	底部欠損
5	土師器 甕	−5～+9	口19.2 底－ 高－	①普通　②純い橙色　③ 白色細砂粒・角閃石	外面 内面	口縁部横撫で、胴部上位斜横位篦削り、中 ・下位斜縦位篦削り。 口縁部横撫で、胴部斜横位篦撫で。	口縁部～胴部 下位3/5
6	女瓦	+6	長さ<10.5>幅<13.0>　厚さ2.3　褐灰色　白色軽石・石英　外面　撫で。内面　布目。				破片
7	刀子	+9	長さ<4.0>　幅1.0　厚さ0.2　重さ28g				刃部破片
8	鉄滓	+17	長さ6.4　幅4.1　厚さ3.0　重さ46.1g				

土坑

1号土坑

1	土師器 甕	+13	口－ 底(4.8) 高－	①普通　②純い黄橙色 ③白・黒色細砂粒・角閃石	外面 内面	胴部斜縦位篦削り。 胴部横位篦撫で。	胴部下位破片

2号土坑

1	灰釉陶器 椀	覆土	口(16.2) 底(8.0) 高5.8	①還元　②灰色　③白・ 黒色細砂粒	外面 内面	体部轆轤整形、底部不明。 体部轆轤整形。内外面浸掛け施釉。	1/3
2	土師器 小形台付甕	覆土	口(11.2) 底－ 高－	①普通　②純い赤褐色 ③白色細砂粒・角閃石	外面 内面	口縁部横撫で、胴部横位篦削り。 口縁部横撫で、胴部横位篦撫で。	口縁部～胴部 上位1/4
3	土師器 小形台付甕	覆土	口－ 底－ 高－	①普通　②純い赤褐色 ③白・褐色細砂粒	外面 内面	胴部斜縦位篦削り。 胴部横位篦撫で。台部撫で。	胴部下位～台 部上位1/3

4号土坑

1	須恵器 坏	覆土	口－ 底(6.0) 高－	①還元　②黄灰色　③白 色細砂粒	外面 内面	体部轆轤整形、底部右回転糸切り。 体部轆轤整形。	底部破片
2	須恵器 坏	覆土	口－ 底(6.0) 高－	①還元　②灰色　③白色 細砂粒	外面 内面	体部轆轤整形、底部右回転糸切り。 体部轆轤整形。	底部破片
3	女瓦	覆土	長さ<14.0>　幅<8.0>　厚さ2.4　純い橙色　白・褐色細砂粒　外面　撫で。内面　布目。				破片

10号土坑

1	須恵器 羽釜	±0	口(22.1) 底－ 高－	①酸化　②灰黄色　③白 色細砂粒	外面 内面	轆轤整形。 轆轤整形。	口縁部破片

遺構外出土遺物

1	剥片		長さ4.2　幅3.9　厚さ1.7　重さ23.6g　チャート	完形
2	剥片		長さ1.6　幅1.8　厚さ0.5　重さ1.1g　黒曜石	完形
3	石鏃基部		長さ0.7　幅0.7　厚さ0.3　重さ0.2g　黒曜石	破片
4	剥片		長さ1.5　幅1.0　厚さ0.2　重さ0.8g　黒曜石	完形

Ⅳ　調査の成果

重複住居の時間差と煮沸具変遷の時間幅

－１・２号住居出土遺物の年代の検討から －

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　　坂　口　　一

１．はじめに

青梨子熊野前遺跡では、１号住居と２号住居が重複して占地し(図1)、２号住居が１号住居の覆土を切って構築しているという、平面精査及び土層断面の所見を得ている。これらの住居は伴出した土器の型式から、１号住居は９世紀後半に、２号住居は10世紀前半にそれぞれ比定でき(図3)、両者は一見すると時間的に継続した住居のようにもみえる。

一方、１号住居からは土師器のコの字状口縁甕(コの字甕)が、２号住居からは須恵器の羽釜がそれぞれ出土し、これらの住居の年代は煮沸具の形態が大きく変化する時期を挟んでおり、コの字甕から羽釜への変遷の過程を示している。

したがって、ここではこれらの年代を細かく検討して、重複する竪穴住居の時間差と、コの字甕から羽釜への移行過程について検討してみたい。

２．１・２号住居出土土器の年代の検討

１号住居からは、土師器の甕・台付甕、須恵器の坏・椀、灰釉陶器の皿が、いずれも床面直上から出土している。これらは、やや崩れたコの字状を呈す土師器甕、比較的扁平で大きく開いた口縁部の須恵器坏などの様相が、群馬県における奈良・平安時代の土器の編年(坂口・三浦，1986)の第Ⅹ段階に位置付けられる。一方、２号住居からは、須恵器の羽釜・椀が竈周辺の床面付近から、灰釉陶器の椀が覆土内からそれぞれ出土している。これらは、やや内傾する口縁部の須恵器羽釜の様相が、同編年の第ⅩⅠ段階に位置付けられる。

したがって、１号住居の出土土器は９世紀第４四半期に、２号住居出土土器は10世紀前半にそれぞれ位置付けるのが妥当と考えられる。

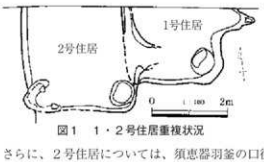


図１　１・２号住居重複状況

さらに、２号住居については、須恵器羽釜の口径が大きく、口縁部の内傾の度合いが比較的少ないことから最古段階ではなく、やや新しい様相を備えている。また、覆土内ではあるが伴出する灰釉陶器椀は、美濃における灰釉陶器編年の大原２号窯式に比定することができるが、端部が丸味をもつ高台部や、湾曲の少ない体部の状況から、大原２号窯式のなかでも新しい段階に位置付けられよう。

一方、前橋市・石関西田Ⅱ遺跡Ｂ区13号住居において、最古段階の須恵器羽釜に最終段階の土師器コの字甕が共伴していることから(図２、根岸，2002)、最終段階の土師器コの字甕が共伴することのない須恵器羽釜の様相は、最古段階よりやや新しいとの想定ができる。したがって、２号住居出土土器は10世紀前半でも新しい段階で、敢えて言えば第２四半期頃との想定が可能である。

図２　石関西田遺跡Ｂ区13号住居出土遺物

3．重複する竪穴住居の時間差

出土土器の検討から、１号住居は９世紀第４四半期、２号住居は10世紀第２四半期頃と想定した。この年代比定が正しいとすれば、１号住居と２号住居の時間差は、仮にその構築段階同士をとった場合50年の時間差が存在したことになる。また、それぞれの住居の存続期間は不明だが、これらが位置付けられる四半世紀の全てに存続したと仮定した場合、１号住居の廃棄から２号住居の構築までの間には、約四半世紀の空白期間が生じていることになる。

したがって、一見時間的に継続しているようにみえる１号住居と２号住居の間には、約四半世紀の空白期間が存在して、例えば１号住居から２号住居への、時間的に連続した建て替えではないものと考えられる。換言すると、竪穴住居の重複という現象は、おそらく四半世紀ほどの空白期を挟んで起こる可能性が高いものと考えられよう。

4．コの字甕から羽釜への変遷

この遺跡では、９世紀第４四半期の１号住居には須恵器羽釜が存在せず、10世紀第２四半期の２号住居には土師器コの字甕が存在しない。一方、須恵器羽釜、灰釉陶器などの様相から、おそらく10世紀第１四半期に位置付けられる石関西田Ⅱ遺跡Ｂ区13号住居において、この両者の共伴が認められる。

したがって、10世紀第１四半期には須恵器羽釜が出現する一方で、土師器コの字甕も口縁部の形状が変化しながらこの段階まで存在したことになる。

つまり、土師器コの字甕から須恵器羽釜への煮沸具の変遷は、10世紀第１四半期の比較的短い時間幅のなかで移行したものとの想定ができよう。

引用文献

坂口　一・三浦京子　1986『奈良・平安時代の土器の編年』『群馬県史研究』第24号 pp18-55　群馬県史編さん委員会

根岸　仁　2002「２.集落の継続性について」『石関西田遺跡Ⅱ』p141　(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

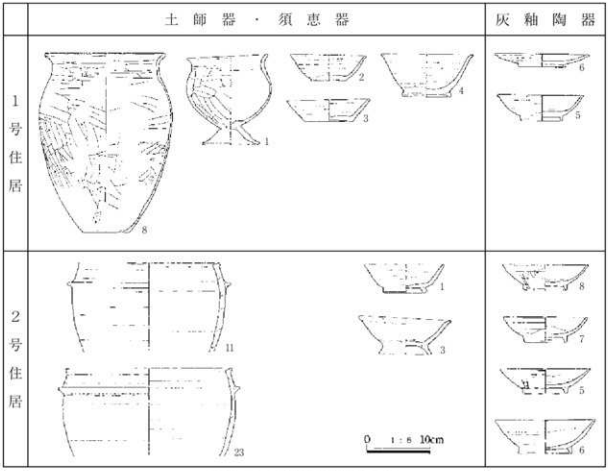


図３　１・２号住居出土遺物編年表

写真図版

遺跡遠景

遺跡全景

1号住居土層断面A（南西から）

1号住居遺物出土状況（西から）

1号住居遺物出土状況（南西から）

1号住居出土遺物（南西から）

1号住居出土遺物（東から）

1号住居床下土坑土層断面（南から）

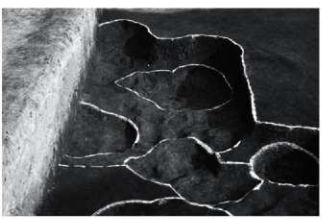
1号住居貯蔵穴（西から）

1号住居竈土層断面（西から）

1号住居竈土層断面（南から）

1号住居竈全景（西から）

1号住居竈掘方全景（西から）



1号住居掘方全景（西から）

1・2号住居重複状況（西から）

2号住居土層断面A（南から）

2号住居遺物出土状況（西から）

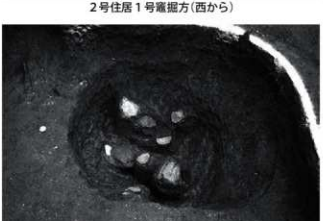
2号住居遺物出土状況（東から）

2号住居遺物出土状況（西から）

2号住居1号竈（西から）

2号住居1号竈掘方（西から）

2号住居貯蔵穴土層断面（西から）



2号住居貯蔵穴（西から）

1・2号住居重複状況(西から)

2号住居2号竈遺物出土状況(東から)

2号住居2号竈(東から)

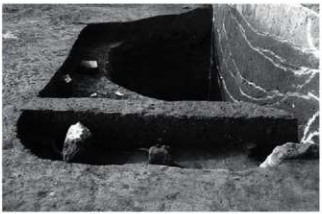
2号住居全景(西から)

2号住居2号竈掘方(東から)

2号住居床下土坑(西から)

2号住居全景(東から)

2号住居掘方全景(西から)

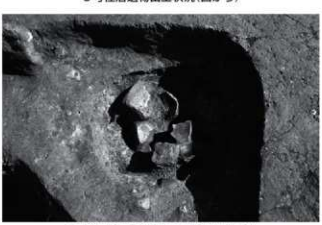


3号住居土層断面A（東から）

3号住居土層断面B（南西から）

3号住居遺物出土状況（西から）

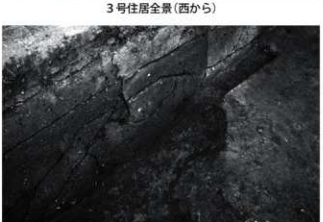
3号住居遺物出土状況（東から）



3号住居貯蔵穴遺物出土状況（西から）

3号住居全景（西から）

3号住居・4号土坑重複状況（南から）

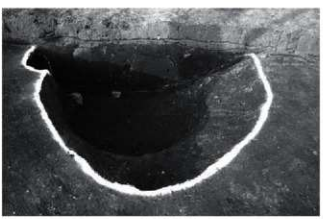


3号住居竈土層断面A（南から）

1号土坑土層断面（南から）

1号土坑全景（西から）

2・3号土坑土層断面（南から）



2・3号土坑全景（南から）

4号土坑土層断面（南から）

4号土坑全景（西から）

5号土坑土層断面（南から）

5号土坑全景（南から）

6号土坑土層断面（南から）

6号土坑全景（南から）

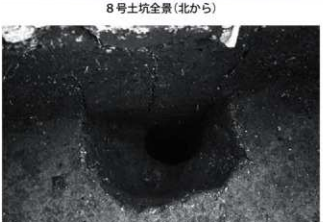
7号土坑土層断面（南から）

7号土坑全景（南から）

8号土坑土層断面（北から）

8号土坑全景（北から）

9号土坑土層断面（北から）



9号土坑全景（北から）

10号土坑土層断面（西から）

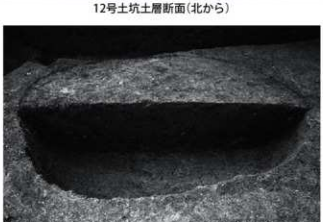
10号土坑全景（南から）

11号土坑土層断面（北から）

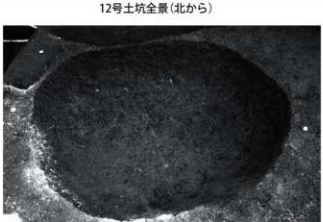
11号土坑全景（東から）

12号土坑土層断面（北から）

12号土坑全景（北から）



13号土坑土層断面（北から）



13号土坑全景（北から）

遺跡調査前風景（西から）

工事完成後（西から）

遺跡調査前風景（東から）

工事完成後（東から）

6

5

4

2

3

7

1

9

8

11

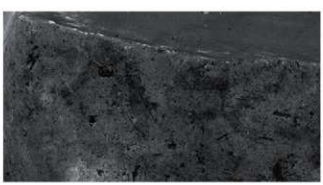
12

10

1 号住居出土遺物

2号住居出土遺物(1)

2 号住居出土遺物(2)



3 号住居出土遺物(1)

5

7

8

6

3 号住居出土遺物 (2)

1 土 -1

2 土 -2

2 土 -3

2 土 -1

4 土 -1

4 土 -2

4 土 -3

10 土 -1

土坑出土遺物

1

2

3

4

遺構外出土遺物

報　告　書　抄　録

書名ふりがな	あおなしくまのまえいせき
書名	青梨子熊野前遺跡
副書名	主要地方道前橋笠懸線地方道路交付金事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	1
シリーズ名	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	467
編著者名	坂口　一
編集機関	財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	2009年２月16日
作成法人ＩＤ	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	あおなしくまのまえいせき
遺跡名	青梨子熊野前遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばししあおなしまち
遺跡所在地	群馬県前橋市青梨子町
市町村コード	10201
遺跡番号	00783
北緯(日本測地系)	36° 24′ 19″
東経(日本測地系)	139° 01′ 07″
北緯(世界測地系)	36° 24′ 30″
東経(世界測地系)	139° 00′ 55″
調査期間	2007年02月01日－2007年02月28 日
調査面積	340㎡
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	平安
遺跡概要	集落－平安時代－竪穴住居３／平安～中・近世－土坑 13
特記事項	土師器コの字甕、須恵器羽釜をそれぞれ伴出する竪穴住居が重複して出土。
要約	榛名山南東麓における平安時代の調査。奈良・平安時代における、県下の中枢地域の縁辺部に立地する集落遺跡。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第467集

青梨子熊野前遺跡

主要地方道前橋箕郷線地方道路交付金事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成21年(2009)2月16日　印刷
平成21年(2009)2月16日　発行

編集・発行／財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地の2
電話(0279)52－2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／杉浦印刷株式会社